

## 英国史上最もスキャンダルで最も芸術的評価の高い王

英国 1826年 ジョージ4世 5ポンド金貨

【発行枚数】 150枚 【サイズ】 38.00mm/39.94 g

【希少性】 ★★★★★

【ご案内価格】 25,000,000円～(税込)



## ジョージ4世 (George IV)



在位：1820年1月29日 - 1830年6月26日

生没：1762年8月12日 - 1830年6月26日 (68歳没)

質素でスキャンダルとは無縁の父王ジョージ3世とは正反対の性格の持ち主。

21歳の頃には議会と父から計11万ポンド（現在の価格で約2億円）の年金を与えられたが、競馬、別荘、酒、多数の愛人が必要な彼にとっては全く事足りる金額ではなかった。

33歳の時に父の命令によりプロイセン王国のキャロラインと結婚するも彼女とはそりが合わず、以前から交際していた異教徒のマリア・フィッツバートを愛し続けた。

（ジョージ4世とキャロラインはお互いにお見合い用絵画と本人の差にガッカリしたと言われている）

王としての政治的な評価はさておき芸術面や文化的な功績が高く、大英図書館設立やイングランド王として初のスコットランド訪問等が挙げられる。

裏面の紋章が手に取る全ての人を魅了する5ポンド金貨。

発行から200年経った現在も光り輝いている。



マリア・フィッツバート



ジョージ4世



キャロライン王妃



**ジョージ4世の肖像（1819年）と風刺画（1821年）**

自分の事を良く書かせるのはこの人物に限った事ではないが、晩年のジョージ4世は肥満とアルコール依存症の為痛風、動脈硬化に苦しんでいた。本人象としては右側の風刺画に近かったと言われている。

表面：ジョージ4世の肖像  
 GEORGIUS IV DEI GRATIA 1826（神の恩寵によるジョージ4世、1826年）



アーミンのmantを羽織ったオーストリア皇后女王  
 マリア・テレジア  
 （1717年-1780年）



**ジョージ4世の紋章**

左上から時計回りに

- ・スリーライオン（イングランド）
- ・ランパント（スコットランド）
- ・スリーライオン（イングランド）
- ・ハーブ（アイルランド）

の紋章が刻まれた盾。

上にかかっているのは王のみが着用を許されたオコ  
 ジョの毛が素材の金のmant。

オコジョは「純白の毛皮が汚れる位なら死を選ぶ」  
 という言い伝えから中世ヨーロッパの貴族の間でマ  
 ントとして愛用されてきた。

その中でも冬に取れた上質な毛皮をアーミンと呼び、  
 現在でも高値で取引をされている。

裏面：王のみが着用を許された金色のmantがかかった盾（別頁にて解説）  
 BRITANNIARUM REX FID: DEF:（ブリタニア全土の王、信仰の擁護者）

**世界で最も美しい金貨の完全複製版**

英国 2019年 エリザベス2世 ウナとライオン 200ポンド(2oz)金貨

【発行枚数】 225枚 【サイズ】 40.00mm/62.42 g

【金品位】 99.99% (参考金価格：約530,000円) 【希少性】 ★★★★★

【ご案内価格】 10,000,000円～ (税込)



表面：ウナとライオンの構図

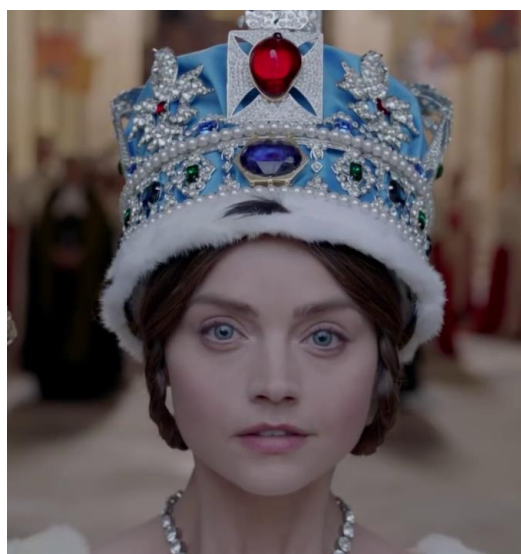
DIRIGE DEUS GRESSUS MEOS (主が我等を導く) MMXIX(2019年)

W.WYON R.A. (ウィリアム・ワイオン ロイヤルアカデミー)

裏面：エリザベス女王の肖像

ELIZABETH II・D・G・REG・F・D・200POUNDS (神の庇護を受けしエリザベス2世、信仰の擁護者)

首元にJC (デザイナー Jody Clarkのイニシャル)



1839年、即位当時 (18歳) のヴィクトリア女王 (左)  
海外ドラマ「女王ヴィクトリア 愛に生きる」より (右、ジェナ・コールマン)



2019年 復刻版

### ウナとライオン (Una And The Lion)

エドモンド・スペンサーによる「妖精の女王 (1590年発行)」をモチーフにした、ヴィクトリア女王の戴冠翌年に鑄造された記念金貨。デザイナーは当時の造幣局長ウィリアム・ワイオンが手掛け、「世界で一番美しい金貨」と言われている。

裏面のウナ (ヴィクトリア女王) とライオン (英国) が寄り添い歩いて行く姿が描かれる姿は、発行から200年近く経った今でも世界中のコレクター、富裕層から愛されている。



1839年 オリジナル



## 重なる戦争の舞台となった自由都市が発行した、平和を願った金貨

ドイツ 1698年 ニュルンベルク都市景観 ヴェストファーレン条約締結50周年記念 6ダカット金貨

【発行枚数】不明 【サイズ】43.50mm/21.00g

【希少性】★★★★★

【ご案内価格】20,000,000円～（税込）



表面：右手にオリーブの枝、左手にカドゥケウスを持ったパックス（ローマ神話に登場する平和と秩序の女神）

左右には椰子の葉と盾（左：神聖ローマ帝国の紋章、右：ニュルンベルクの紋章）を持った2人の守護精霊

EXOPTATA DIV PAX COE : LI EX MVNERE VENIT（今求められているのは平和である）

台座の中央（6時位置）にGFN（ゲオルク・フリードリッヒ・ニュルンベルガー：1677年からニュルンベルク造幣局長を務めた人物）の刻印

裏面：12時位置にテトラグラマトン（Tetragrammaton、ヘブライ語で神を表す文字＝神聖四文字）

戦争が終結した後の平和なニュルンベルク都市景観

MONETA REIPUB NORIMBERGEN SIS 1698（自由都市ニュルンベルク発行 1698年）

## ニュルンベルク（Nürnberg）



バイエルン州北部に位置する、ドイツ国内でも有数の芸術・歴史的に有名な都市。

13世紀になると神聖ローマ帝国から「帝国自由都市」として指定され、皇帝が住居を構えたことから帝国の中心地としても繁栄した。

ニュルンベルク、アウグスブルク、ハンブルク等の商業都市の特徴としてユダヤ人が多く居住する事が見られる。

ニュルンベルクでは中世から多くのユダヤ人が住んでいたが1298年8月1日に勃発した「血の中傷」と呼ばれる暴動では1000人近くのユダヤ人が殺害されるという事件が起こった。

そして三十年戦争（1618-48）では戦いの舞台となり、経済的にも物理的にも大きな被害を被った。

「人類史上最悪の戦争」として数えられる三十年戦争の激戦地となったニュルンベルクが発行した、平和を願った歴史的な1枚。



## ヴェストファーレン（ヴェストファリア）条約

1648年ドイツ・ヴェストファーレンで成立した三十年を終結させる条約。

結果として神聖ローマ帝国の実質的解体が進み、フランス・オランダなどはドイツの一部地域を吸収する形となった。

この頃の英国はというとピューリタン革命真っ最中の為、ヴェストファーレン条約にはほとんど関わってはいない。



### 平和の女神パックス

右手に神に捧ぐオリーブ、左手にカドゥケウス（2匹の蛇が絡まった杖。生きている物を眠らせ、死にゆく者をよみがえらせた）を持つ、ローマ神話の女神。



**左右に守護精霊ゲニウス**  
当時の人たちは科学で解明できない事は精霊の仕業だと考えていた。

### ニュルンベルクの小紋章

1350年に神聖ローマ帝国から自由都市として指定された時に制定された。左半分が神聖ローマ帝国の双頭の鷲がデザインされている。

### ニュルンベルクの大紋章

メイデンイーグルと呼ばれる顔は女性、体は鷲のデザイン。皇帝への忠誠の証として鎧などにも刻印されていた。



### テトラグラマトン

神の名を表す「神聖四文字」。なんとその発音は未だに解明されておらず、「エホバ」と読むのが正しいと一般的に言われている。イスラム教の絶対神「アッラー」と同一神とされる。



戦争が終結し、平和が戻ったニュルンベルク都市景観  
(画像は1650年頃)

## 戦術のカリスマ・アレキサンダーが側近【ヘタイロイ】に直接渡していた戦利品

古代マケドニア 336-323BC アレキサンダー大王 2スターテル金貨

【発行枚数】不明【サイズ】22.00mm/17.19g

【希少性】★★★★★

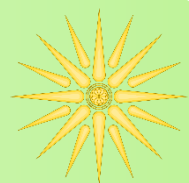
【ご案内価格】12,000,000円～（税込）



### アレキサンダー大王 (Alexander The Great)

在位：紀元前336年 - 紀元前323年

生没：紀元前356年7月20日 - 紀元前323年6月10日（32歳没）



最盛期にはギリシャからインドまでの世界を征服した古代マケドニア王国の若き王。

2スターテル金貨は表題の通りヘタイロイに賃金として手渡されていたとされ、1スターテル金貨との希少性の差は数十倍にもなる。

当該コインは現在のギリシャ北部にある中央マケドニア地域に存在した古代都市アンフィポリスで鋳造された1枚。

アンフィポリスはアレキサンダー大王の父フィリッポス2世によって占領され、経済的に豊かになったとされている。

マケドニア王国に向かうにはアンフィポリスを経由する必要があった為「王の道」とも言われていた。

19世紀に入ってからは様々な遺跡や墓が発掘されてる。



### ヘタイロイ

元々は重装騎兵の呼称であったが、次第に「王の友」「側近」という意味になった。

ヘタイロイは後の東ローマ帝国で「コンパニオン」と呼ばれ現在の「会社・仲間」を意味する言葉の語源となっている。



存命の人物を貨幣に描く事がご法度であった時代であった為、時の王アレキサンドロスは自身を戦術の神として描く事を指示した。ディアドコイ戦争の後は多くの王が「我こそがアレキサンドロスの後継者である」という意思表示も含め同じようなデザインの貨幣を製造している。



「アテナとペガサス」 (1654年)

表面：コリントス式兜を被った戦術の女神アテナ



(左) ルーブル美術館に貯蔵されている「サモトラケのニケ」で有名な勝利の女神が裏面に刻印されている。通常は右側に発行元の王の名が刻印されている。彼女はスポーツブランド「NIKE」の語源にもなっている。



紀元前300年頃に使用されていたカンタロス (右)

裏面：右手に月桂冠、左手にスタイラス（石板に文字を書き込む筆）を持った勝利の女神ニケ  
左側にはワインを神に捧げる時に使用する杯「カンタロス」  
ΑΛΕΞΑΝΔΡΟΥ (アレキサンドロス)



## 貨幣の歴史が始まった世界最古の金貨

古代リディア 561-546BC クロイソス王 スターテル金貨

【発行枚数】 不明 【サイズ】 19.00mm/8.01g

【希少性】 ★★★★★

【ご案内価格】 10,000,000円～（税込）



表面：左側にライオン（王の権力）、右側に牛（王の富）の刻印。太陽と月を表したという説もある。

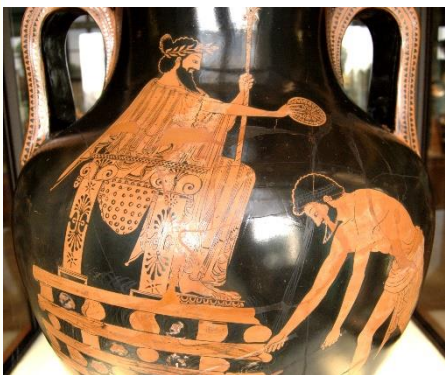
裏面：インキューズ（表面に浮き彫りにされた意匠がそのまま裏面に凹んで打刻されている、古代金貨によく見られる打刻）

## 最も古く、最もロマンがつまったコイン

ある日、強欲な王様であったミダスは神に頼み込み自らが触った物を全て金にする力が欲しいと頼み込んだ。力を手に入れたミダスは大変喜んだが、食べ物や飲み物、拳句の果てに娘も金になってしまった事からこの力が破滅の元である事に気付く。

その後「パクトロス川で罪と罰を洗い流せ」という神の助言通り、パクトロス川で手を洗った時に出来た金で作られたのがこのリディア金貨だと言われている。獅子は権力、雄牛は富を象徴し、今でも英語圏では大富豪を意味する言葉として“Rich as Croesus”という言い回しが残っている。その希少性から大英博物館によって“A History of the World in 100 Objects”（世界の歴史的展示物100選）にも選出されている。

このミダスは童話「王様の耳はロバの耳」でロバの耳になってしまった王でもある。



その強大な富で知られていたクロイソスは、権力の象徴として描かれる事が多い

（左）薪の山の上のクロイソス

（紀元前500年 - 紀元前490年、ルーヴル美術館貯蔵）

（右）リュディアの農民から貢ぎ物を受けるクロイソス（1629年）

金の銅像と化したミダスの娘  
（ナサニエル・ホーソン、1893年）

# A history of the world in 100 objects: The coins of Croesus

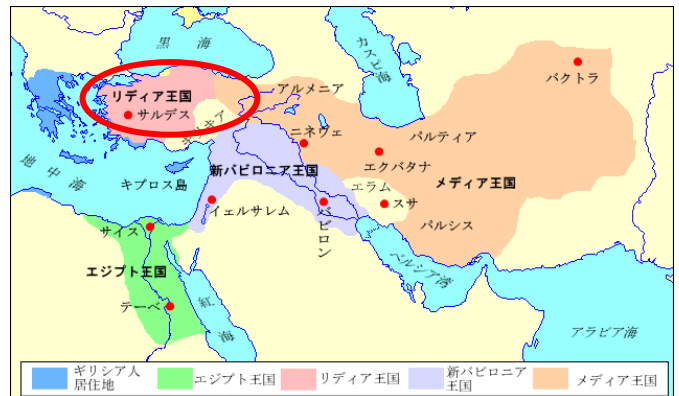
▶ The coins, which date back to 550BC, signify the beginning of the story of money as we know it.



## リディア王国 (Lydia Kingdom)

700～546BCに小アジア（現在のトルコ）西部に存在した王国。小アジア西部のエーゲ海に面した地域を支配していた。

600BC頃のクロイソス王統治時代に全盛期となり、巨大なアルテミス神殿を建造した。エーゲ海に面したイオニア地方にも隣接していた事から商業が発達し、700BCに世界初の貨幣を使用した。



## クロイソス王 (King Croesus)

在位：紀元前560年頃 - 紀元前547年頃  
生没：紀元前595年 - 紀元前547年頃

紀元前700年頃から続いた小アジア（現在のトルコ）西部に存在したリディア王国最後の王、クロイソス。莫大な富を持つ王として知られており、彼の名はギリシャ語で「富のある者」という意味となった。この時代のリディア王国は最盛期となり、巨大な神殿を建築しエーゲ海に面した隣国とも商売が盛んに行われた。

最終的に世界一の富を持つ事になるクロイソスだが、隣国ペルシャ帝国との戦争で首都サルデイスを攻略されリディア王国は滅亡する事となる。クロイソス自身は紀元前547年にペルシャ帝国の捕虜になった所まで歴史に名を残すが、いつ・どこで・どのように死亡したかは未だに不明である。

